

「ひよりの里グループ」の活動について

田島漁協女性部

ひよりの里グループ 兼田キヌエ

1. 地域の概要

私たちの住む内海町は、広島県福山市の南部に位置し、沼隈半島の沖 1km に浮かぶ田島、横島という 2 つの島からなり、内海大橋で本土と繋がっている。平成 16 年に内海町が福山市と合併し福山市内海町となった。漁業が昔から盛んな地域であり、その他みかん栽培も主要産業となっている。

2. 漁業の概要

私たちの属している田島漁業協同組合では、海苔養殖、魚類養殖、小型定置網、小型底曳網などの漁業が営まれており、定置網観光も行っている。組合員数は 103 名で、そのうち 65 名が正組合員である。

3. 研究グループの組織と運営

漁協女性部は現在 26 名の部員で構成されており、その中で私を含め主に 3 名が「ひよりの里グループ」として、魚を使った加工品・のりの佃煮・餅などを生産し販売している。また、環境問題にも目を向け、海などを汚さない廃油石鹸作りの普及や EM 菌を使って醗酵させた生ゴミを肥料として使用した野菜や果物の生産にも取り組んでいる。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

近年、魚価の低下により、市場や仲買に出荷するだけでは漁業経営の向上は望めず、厳しい状況が続いている。また、地元で取れた一部の小魚等は、新鮮で料理方法によっては美味であるにもかかわらず、値段が殆どつかないため活用方法を考えていた。これらの問題解消策を検討していたところ、平成 7 年に当時の内海町役場の担当者より、「町の農水産物加工センターを利用して、地元の特産物が作れないか」との依頼があり、これを受けることにした。その後、町の補助金で焼き機を購入し、菓子・餅・あんこの菓子製造許可を取り、加工技術取得のため、会員全員が広島市にある広島県食品工業技術センターで 2 日間の研修を受講し、同年より活動を開始した。

5. 研究・実践活動状況及び成果（効果）

当初は「グチの一夜干し」を作り、春の魚祭りに出店したところ、大変好評で沢山売れた。また、当時内海町で「ふれあい朝市」が第 1・第 3 日曜日に開催されていたので、そこにも出品していた。ただ「グチの一夜干し」は製造から販売までに大変手間がかかり、売上から経費を差し引いた利益から支払う事のできる時給は 300 円程度であり、当初 15 名で結成したグループの参加者が徐々に減っていき、現在の 3 名となった。

平成 8 年より「ひらめの姿焼きせんべい」と「草餅」の販売を開始し、時給を 700 円にすることができ、活動が安定した

平成 10 年 11 月に漁協女性部として「食のアメニティコンテスト」に「さめてもおいしい鯛めし」と「でべら姿焼きせんべい」を出品し、全国 60 点の応募の中から農林水産大

臣賞に選ばれた。受賞後、テレビやラジオで多数取り上げてもらい、たくさんの注文を受けたが、当時は焼き機が1台しかなかったので1日中フル回転で製造していた。平成14年に焼き機を1台増やし2台で製造を始めた。

平成17年には念願であった広島市中区の本通りにある「ひろしま夢プラザ」への出品が適い、「入魂の一品」として、地元RCCラジオが「ひらめの姿焼きせんべい」を紹介してくれたことから大変な反響をもらい、またしても製造が追いつかないほどの受注を受ける事が出来た。

現在は「ひらめの姿焼きせんべい」を「ひろしま夢プラザ」、安芸郡府中町の「イオンモールソレイユ」、福山市鞆ノ浦にある「けんちゃんのいりこ屋」等に出荷しており、出荷の中心となっている福山市沼隈町の道の駅「アリストめまぐま」では、5月から10月は柏餅、9月から翌6月までは草餅、ひらめの姿焼きせんべいは1年中販売しており、製造が追いつかないほど売れることも度々である。

6. 波及効果

平成17年に「農林水産業・農林漁村の特性を活かしつつ、シニアの皆さんが生涯現役を目指し、生き生きとした活動をしているグループ」を募集した「農山漁村いきいきシニア活動」に、市や県の協力を得て応募し、農林水産省より、農林水産庁官賞を受賞した。これをきっかけとして「ひらめの姿焼きせんべい」が地域の特産品としてより広く知られることとなり、廃油石鹸やEM菌の利用といった環境活動への取り組みにも、まわりの協力が得られるようになった。

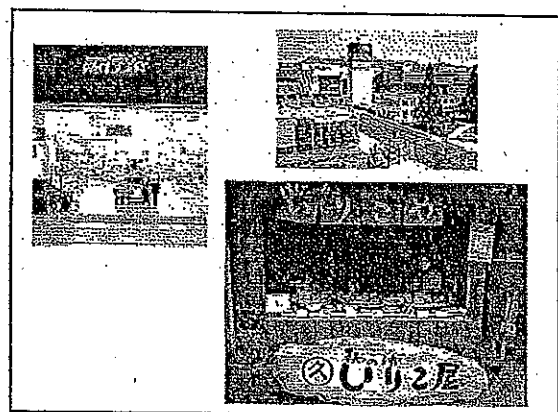
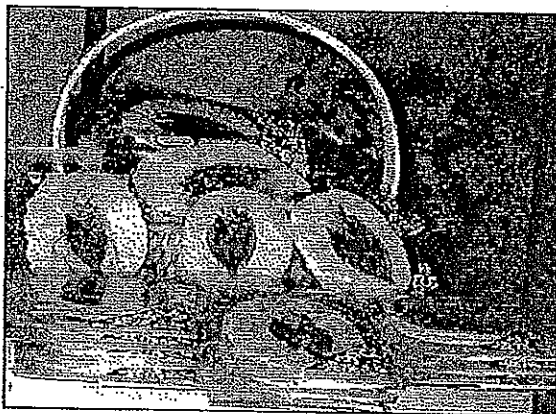
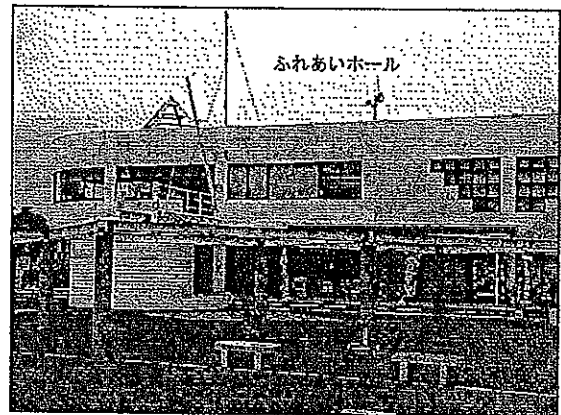
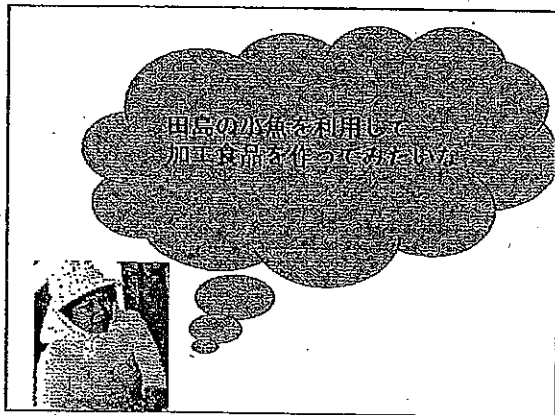
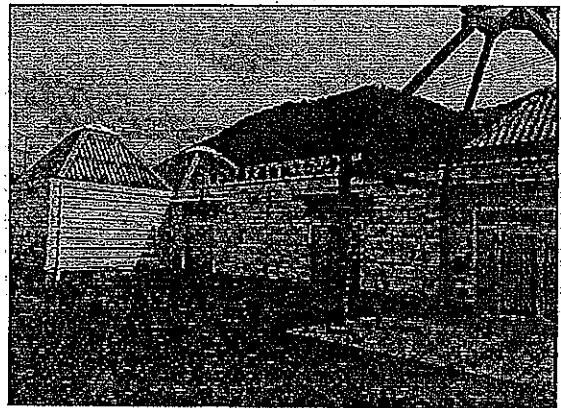
7. 今後の課題や計画と問題点

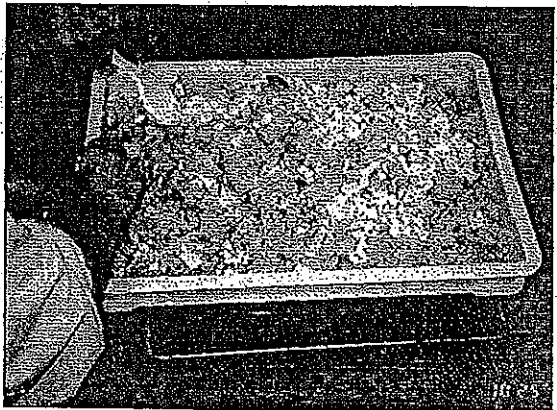
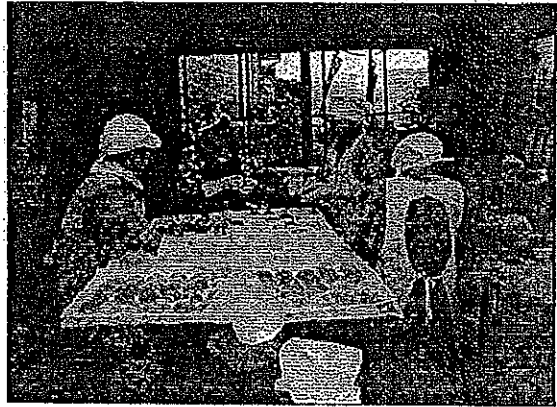
当初より「昔ながらの味を。買っていただける方に喜んでいただける物を。」という思いで商品を作ってきたが、ここ数年、ネット販売を含め大手業者から大量生産の申し出もあり、今後の方向性をメンバーで検討している。

大量生産による品質の劣化や手作りの良さが失われることには少なからず反発があるが、グループを設立した当初の目的である「漁家収入の増加」という観点からすると、このまま3人で生産を続けることが必ずしも良いとも思わない。もっと多くのメンバーを募り、色々な加工品等の製造販売が出来るようにならなければいけない。

現在、田島漁協の門田参事を中心に、漁協女性部として地元の「ぼら」などの安価な魚を使った揚げ物を研究している。既にイベント等では大反響を得ており、福山市の小学校給食に採用してもらう交渉も進んでいる。私たちグループの活動との相乗効果が生じ、内海町の特産品が広く販売され、買った人に喜んでもらうこと、また結果として漁業者の収入が増加することを目指し日々の仕事に励んでいる。

昨今は主人と一緒に船で漁にでることができなくなり少し寂しい気がするが、ただ働ける事が楽しくて、毎日体調に気をつけ頑張っている。





ふるさと産品 ひらめ製菓「バリバリ歯ごたえ」

広島県で「でべそ」と呼ばれ、10月最後のヒラメの産出量に
 対して「でべそ」の平均値1割増しの
 販売した。ひらめは産出量が少ない
 ため、バリバリと歯ごたえがある。カサシ
 ンクも豊富で、お菓子に使う材料の
 部分のバリバリと歯ごたえが、
 高く評価されている。2月に入り、
 いりこエビの産出量も増え、サ
 クラップとした産品の生産もよく
 なっている。12月
 岡山県内産品の生産グループ
 「ひらめ」が、20年、12月、
 産地の間にしやならなかった。岡山県産品084年0204

